

メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第二2:13~17 「信仰に堅く立つ」

[13]「しかし、あなたがたのことは、私たちはいつでも神に感謝しなければなりません。主に愛されている兄弟たち。神は、御霊による聖めと、真理による信仰によって、あなたがたを、初めから救いにお選びになったからです」

パウロは神を信ぜず、福音を受け入れないで悪を喜んでいるすべての人に臨むさばきを12節までで語ったが、ここからは教会に与えられている恵みの事実について教えていく。

彼らは「主に愛されている」。そのわけは、神は彼らを「初めから救いにお選びになったから」である。この「選び」とは世の初めから、世界の基の置かれる前からの選び。→エペソ1:4

神の愛は神の選びにおいて示されるのであり、神が愛してくださっているということは、その人が救いに選ばれるということである。そして、それが現実のものとして確認できるのは①その人が御霊によって聖められていくということ。②福音の真理を受け入る信仰を持つということである。→使徒13:48

[14]「ですから神は、私たちの福音によってあなたがたを召し、私たちの主イエス・キリストの栄光を得させてくださったのです」

神はパウロたちが福音を宣べ伝えることによって、テサロニケ人たちがキリストを信じ受け入れる者としてくださった。ここに現実における神の召し、選びというものが見られている。そして、さらに彼らをキリストのはかり知れない栄光にあずからせる者としてくださったのである。

[15]「そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、または手紙によって教えられた言い伝えを守りなさい」

パウロや他の使徒たちのことばや手紙は、今、新約聖書として私たちの手元にある。→Ⅰテサロニケ2:13、Ⅱテモテ3:16、Ⅱペテロ1:20~21, 3:16 クリスマスは、さまざまな誤った教えやうわさなどに動揺させられることなく、神のみこころが明確に示されている聖書のみことばを堅く守り、信仰に堅く立つことが大切である。→Ⅰペテロ1:23~25

[16-17]「どうか、私たちの主イエス・キリストと、私たちの父なる神、すなわち、私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めとすばらしい望みとを与えてくださった方ご自身が、あらゆる良いわざとことばとに進むよう、あなたがたの心を慰め、強めてくださいますように」

良いとわかっているけれども、なかなか実行できないのが人間の常である。私たちも自力で神のみこころを全うすることはできない。それゆえ、パウロはテサロニケ人たちに、またすべてのクリスマンたちに、主イエス・キリストと神ご自身が「あらゆる良いわざとことばとに進むよう、あなたがたの心を慰め、強めてくださいますように」と祈るのである。私たちが神のみこころにかなうあらゆる良いわざとこと

ばとに進むことができるようになるのは、ただ神の恵みなのである。

神は私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めとすばらしい望みとを与えてくださった。そのことは主イエス・キリストの十字架においてははっきり示されている。→ヨハネ3:16

それほどまでに私たちを愛してくださっている神は、私たちを救って、その後は自分たちで頑張るようにと突き放されるようなお方ではない。必ず、クリスチャンとしての生き方を全うし、豊かな実を結ぶことができるように力を与え、慰め、強くし、励ましてくださるお方なのである。

私たちも信仰に堅く立って、あらゆる良いわざとことばとに進めるように神に熱心に祈り求める者になりたい。→ヨハネ15:16